

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	{日の出}の理念 理念に伴う基本方針を玄関・スタッフルームに掲げている。		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎月、第1木曜日及び必要に応じて、法人管理者・施設長を含めたミーティングを行い、スタッフ全員の意思の統一を図っている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
	家族会や運営推進会議等で、御家族や地域の方々に御理解とご協力を頂けるように質疑応答等意見を伺い推進を図っている。		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後も気軽に立ち寄って頂けるような環境作りを工夫して行きたい。
	天気の良い日はホーム周辺の散歩や買い物に出かけ、地域の方々と職員から積極的に挨拶を行い、住民との触れ合いを、大切にしている。また利用者の知人が近所に住んでいる事もあり時に立ち寄って頂き、地域に開かれたホーム作りを目指している。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域の一斉清掃、お祭り、盆踊りには毎年参加をさせて頂き、また子供会の廃品回収にも協力させて頂いている。また月一回発行のホーム便りを公民館にも掲示させて頂き、地域とのお付き合いや交流を大切に考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設管理者は隣組等に積極的に参加をして、会議の場を通して認知症の理解を求めたり、当ホームで出来る事を考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、また外部評価の結果を全員が理解できるように回覧している。改善計画シートを活用し介護サービスの質の改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の活動や身体状況に変化があった方の報告や取り組み、抱えている問題点等を報告している。アドバイスを頂いた事項について取り組み、取り組んだ結果や意見を頂き、介護サービスの質の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。また市職員にホームの行事の案内やホームでの取り組み、相談など適宜行っている。月一回発行のホーム便りを市職員にも配布し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は該当する入居者はいないが、制度の理解や学習を行う為、権利擁護に関する内容の資料を回覧し、理解が深められるように、職員間で話し合いを持っている。	○	全職員で定期的に勉強会を行って行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で資料を配布し虐待防止に取り組んでいる。	○	今年、7月25日職員3名高齢者虐待防止に関する研修会に参加予定。職員間で再度勉強会を行う予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、家族の方と、分かりやすい説明を心がけ利用者・家族の不安や疑問点を尋ね、十分に時間を取り、理解・納得をしていただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から要望や意見などを出してもらう機会として、おやつ時やホールでくつろいでいる時に一人ひとりの意見や苦情、不満が表現できるように声かけを行っている。出来る限り反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族面会時に日頃の状態報告や、心身の状態が変化した場合、家族に連絡を取り、その都度報告を行っている。また面会時、利用料お支払いの時等におこづかい帳を見て頂きサインを頂いている。職員の異動に関してはホーム便りに掲載してお知らせを行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、ご意見箱などで意見を出して頂き、スタッフミーティングにて話し合っている。職員を外した家族会では家族同士で意見苦情を出してもらっている。出された意見は出来る限り対処を心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、第1木曜日及び必要に応じて、法人管理者・施設長を含めたミーティングを行い、スタッフ全員の意見交換が行われている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の入浴時や苑外レク等、必要に応じて職員の人数・配置を考えている。また利用者の状態・状況に応じて、スタッフミーティングを行いながら早出や遅出などの勤務体制を考慮し、調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や個人の事情による離職の際は事前に利用者に報告・説明を行い、動揺がないように配慮している。利用者が環境の変化に敏感であることを考えると、長く、職員が働きやすい環境と職員間での、コミュニケーションが図れるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重	職員の募集・採用の際は、性別や年齢等を採用の対象にはしていない。各職員がその能力を活かせるような環境作りに努めている。		
	法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			
20	○人権教育・啓発活動	外部研修で学んだ内容に基づき勉強会を行っている。		
	法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。			
21	○職員を育てる取り組み	他事業所への研修及び必要とされる外部研修への参加をよびかけている。		
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
22	○同業者との交流を通じた向上	以前は職員を他事業所へ研修に出したり、運営推進会議に同業者を招いたり、交流を図っていたが、現在同業者との交流の機会は少ない。	○	ネットワーク作りや勉強会等の活動に取り組み、サービスの質の向上に繋がるように外部の研修の機会を得、地域の同業者との交流を図って行きたい。
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み	年に何度か親睦会を開き、職員間のコミュニケーションが図れるように行っている。また困っている事や不満がないか、話を傾聴し意見が出しやすいように配慮を行っている。		
	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み	職員一人ひとりの特性、長所を伸ばし、向上心を持って、働けるように努めている。		
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用時、本人に会い、心身の状態を確認し、希望要望など伺っている。また本人について家族との面談も行っている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っている事、不安に思っている事、求めている事等を把握しまた理解して対応が出来るように、その都度話し合いを持っている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に、本人や家族の思い、状況等を確認して、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるように努力している。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を利用していただき、ホームの雰囲気や職員・他利用者となれて頂き、本人や家族が納得された上で、契約を行ってから介護サービスを提供している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の状態・状況・情報を把握し、日常の暮らしを共に過ごす事によってお互いに必要とされている事を感じて頂いている。レクリエーションや行事などを、一緒に参加することで、お互いに支え助け合える関係を作っている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や電話などで、本人の心身の状態や様子を伝え、理解して頂けるように努力している。またケアプラン作成にあたって家族の思いや要望を確認し、家族と職員が一緒に支援できるように努めている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時やサービス担当者会議、家族会等で家族の思いを伺いながら、また外出時や外泊時に、家族と一緒に過ごせる時間を勧めたりと、より良い関係の継続を支援している。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族に、会いたい人や行きたい場所を伺いながら、把握し関係が途切れないように努めている。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から利用者同士の会話の内容、様子を観察行い必要時は職員が中に入り、穏やかに過ごせる様に努めている。また利用者各々に話を聞きながら意見の対立を緩和したり、孤立する人が出ないように配慮している。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず退所された方のご家族からの相談・要望には出来る限り誠意を持って受け付けている。また必要に応じて、本人の状況に合わせた次のサービスの利用方法等、家族へ説明し、継続した支援に繋げるよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努めている。また家族にも伝えて協力をお願いしている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの、今までの生活歴や生活環境等を、センター方式の利用や、家族に確認し把握に努めている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりと接して行く中で、それぞれ過ごし方、心身の状態や出来る、有する力等を把握するように努めている。それぞれの人に見合った対応を心がけている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人や家族の意見、要望を伺い、また担当介護職員、栄養士、看護師、Drの意見等も取り入れてプラン作成に努めている。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また見直し以前に変化が生じた場合も、本人・家族や必要な関係者と話し合いをし、新たな計画を作成するように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの生活の様子を支援経過に記入しており、サービス担当者会議に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、併設のデイケア施設のPTスタッフより機能訓練・歩行訓練を受けたり、リハビリ用具を利用したマッサージなど受けている。また行事で1階デイケア大浴場で菖蒲湯入浴を利用して、支援を行っている。またデイケアと一緒に合同レクや敬老会、運動会等に参加させて貰ったりと、事業所の利点を活用している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て、緊急時や火災時の消防訓練を行っている。 また公民館長、区長さんを行事等に招き、運営に関し協力をお願いしたり、また運営推進会議では、地域住民代表者に参加して頂き、地元の福祉大学より学生ボランティアの協力も得、皆さんの支援を受けている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している。また身体状況に応じて車椅子や歩行器使用や福祉用具の検討を他の事業者と行っている。	○	外部の研修や勉強会等を通じて地域の他のケアマネジャーとの交流、連携を図れるよう努めていきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括支援センターとの協働は実現されていない。 今後、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業を利用する入居者が入れられる可能性もあるので協働の実現に努めたい。	○	今後成年後見制度や地域福祉権利擁護事業などが必要と思われる利用者の為に、研修会や勉強会の機会を作り、知識を得地域包括支援センターと協力して行きたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医がいる場合、状況に応じて職員が受診同伴、送迎を行い、定期的に主治医へ状態報告し信頼関係の構築に努めている。 また症状に合った適切な医療を受けられるよう支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>本人の状態に合わせて、主治医・管理者(医師、施設長)・家族・看護師・介護職員等早めに話し合いを持ち、終末期に向けた方針を共有できるように行っていく。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉使い、対応時は、本人の自尊心や誇り、プライバシーを傷つけないよう充分配慮している。 個人情報に関する同意書を本人や家族に交付して書名・捺印を頂いている。ホーム内にも同規定を掲示している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の状況に応じたコミュニケーションを図りながら、日々の生活における希望や好みを把握し、自分で決める事ができるよう支援している。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事場所・散歩・買い物・レク活動等、一人ひとりの希望や要望に合わせて個別的な支援が出来るように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の更衣、入浴後の洋服は、自分で選んでもらっている。自分で出来ない利用者には季節に応じた服装を選び本人に確認している。 本人のお気に入りの理美容院へ行ける様に、家族の協力を頂いている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月一回の手作り料理や毎週日曜日の手作りおやつは利用者の希望・要望を取り入れ、献立を決めている。食事時も利用者の出来る力に応じて、お茶入れや箸の準備・食器洗い等、職員と一緒に頂いている。また食事職員と一緒に楽しく食べれるように支援している。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	担当介護職員は担当利用者の好物を把握し、外出時買い物と一緒に出来るように努めている。お酒が好きな方には誕生会等に飲んで頂いたり一人ひとりの好みに合わせて提供するように努めている。糖尿病等で制限のある方には医師と相談を行い好きな物が食べれるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に家族や知人に電話が出来るようにしている。また自分で出来ない場合も、希望時はその都度かけて、家族や相手先をお呼びして楽しく会話ができるように配慮している。また郵便物も、やり取りが出来るよう支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族や知人等、お客様が訪ねて来られた際にはお茶等でおもてなし、利用者と共に喜び、歓迎の意思を伝えるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。緊急時止むを得ず必要最小限の身体拘束を行う場合は本人・家族へ説明書を交付し、承諾、同意を得、署名・捺印を頂いている。身体拘束を、しないケアに取り組めるように、職員間で検討話し合いを行っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は24時間鍵はかけていない。構造上で入り口が階段の為、鍵がかかっている。(以前階段から利用者が出て行かれ転倒の危険性があった為) 希望や要望時は、いつでも玄関に行ける様にその都度対応している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その日のリーダー職員及び夜勤者は、各利用者の状態や行動を把握し、居室で過ごされている場合も、適宜訪室し様子を伺い安心して過ごせるように努めている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの能力に応じて危険な物は預かるようにしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な利用者には、移動時見守りを行っている。食事時は職員が一人ひとりの状態に合わせて見守りを行っている。また消防署の協力を得ての火災訓練や日常的にも事故防止に取り組んでいる。	○	誤薬・転倒等が数件起きている。今後職員間で定期的にミーティングや勉強会を行い、再発防止に取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月のミーティングでDrより、応急手当や初期対応の方法を聞き、理解・実践できるように努めている。	○	今後も新人職員を含め、勉強会を行うようにしている。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を作成し、年2回消防避難訓練を行っている。日頃より、近隣の方(地域住民代表者)に声かけして助け合っていく事を確認し訓練への参加も依頼している。また飲用水や食料も3日分非常用備蓄として用意している。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には入居時や面会時、リスクケアマネジメントの話を、適宜行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝・入浴前・外出帰宅時などバイタル測定を行っている。体調不良時や異常時は看護師・Drへ速やかに連絡し対応を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの、薬の手帳がある為、各利用者の処方箋を確認できるようにしている。また毎食前後・寝る前の服薬支援や、各利用者の身体状態の確認を行っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンシートを利用し、排便のない人には運動や水分補給・食べ物を工夫(食物繊維の多い物等)して自然排便を促すようにしている。また食事摂取量の把握、気分不良の観察、腹部の状態など観察して、必要時主治医報告し指示を仰いでいる。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来る人には、声かけ見守りを行い、出来ない利用者には介助にて口腔ケアを行っている。寝る前に、義歯のある利用者には義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託先の栄養士と、利用者一人ひとりがしっかり栄養バランスよく摂取が出来るように、適宜相談・検討を行っている。また食事摂取量や水分摂取量のチェックを行い把握し、状態や状況に応じて補助食を提供している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防の為、外出から帰った際の手洗い・うがいは利用者・職員全員が行っている。介助を行った後の手洗いも励行している。また感染症対策委員を決め、マニュアルを作成し実行している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	委託先の調理業者の厨房やホーム内の台所、調理用具などはこまめに洗浄・消毒を行っている。他に衛生管理係を決め、食中毒防止に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、季節の花を植え、親しみやすく、また和やかな雰囲気を作り、安心して出入りできるようにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターで季節の花々を、ホールでは観葉植物等置き廊下には利用者の作品(貼り絵・習字など)を飾り、居室にも直射日光が入らないように障子戸を設置し、居心地良く過ごせるように工夫している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関入り口にはソファを配置し、自由に使えるようにしている。また気のあった方々がお互いの部屋へ行き来できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・椅子や家族の写真・仏壇等長年使ってきた物、愛着のある家具類など持ってきて頂いている。配置などは、本人や家族の希望・意向を取り入れ居心地良く過ごせるようにしている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度湿度計を利用し外気との差を少なくするようにしている。またこまめに換気を行い、フィルター交換は毎月1回掃除を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム設計時、他の色々な施設を見学参考にして安全に生活が送れるように工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人が混乱や失敗をしないように本人の持てる力に合わせて個別支援を行っている。またうまく行かない時は職員間で話し合い別の対応策を検討・工夫して支援を行っている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関やベランダにプランターを置き、利用者と職員と一緒に四季の花々を見て楽しんだり、玄関周囲でレク(リズム体操やゲーム等)を行うなど活動が出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	kai	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

グループホーム日の出では、利用者が安全に、安心して過ごせ、また利用者一人ひとりの尊厳を大切に、ゆったりとその人らしく過ごせる事を第一に考えています。また当事業所はデイケア併設の為に、理学療法士指導による身体リハビリを行ったり、デイケア利用者との交流によって地域の情報が得られる事による社会性の保持に役立っています。また診療所が同敷地内にあり、医師、看護師、との連携の下、体調管理に努め、緊急時は出来るだけ早い対応が出来るように全職員努力しております。